

横浜コミュニティサイクル baybike



実施範囲図 重点展開区

2014年からスタート
神奈川区（一部）/西区/
中区/南区（一部）

2022年からスタート
瀬谷区・戸塚区・泉区・
旭区・保土ヶ谷区・緑区

2025年からスタート
横浜市内全域

2025年12月末日現在
約300ポート設置済み
※ベイバイクポートのみ

ドコモ・バイクシェアとして

「都心部区域」「中部区域」を
主に設置をいたしております。

横浜市民みなさまの
移動手段として貢献できるよう
ポート設置を行っております。

【2034（令和16）年の将来像】

いつでも、どこでも乗れる便利で手軽なシェアサイクルが
市内全域で面的に展開されており、
市民や来街者の多様な移動目的に活用され、
移動しやすく環境に優しい街「ヨコハマ」

便利

手軽

全域

多様

環境



コストについて

設置・自転車・電源の費用は一切かかりません。



ラック設置費用は
いただきません

設置費用・ラック費用につきまして
お客様のご負担はございません。

自転車の費用は
いただきません

お客様のご負担はございません。

運用後メンテナンス費用は
いただきません

電源やラックの清掃等の
お客様のご負担はございません。

設置スペースについて

一度ご連絡いただき、設置予定場所をお教えてください。

参考5ラック程度の場合：横3.6m×縦2.0m～2.5m（車両の引きしろも含めて）
※最低2ラックからご相談可能 設置方法によりますが2ラックの場合は横1.8mは必要となります。
アンカー打ち等は行わず、鉄板を置くだけのため、床面を傷つけることはございません。
横浜市ラックレスはできません。

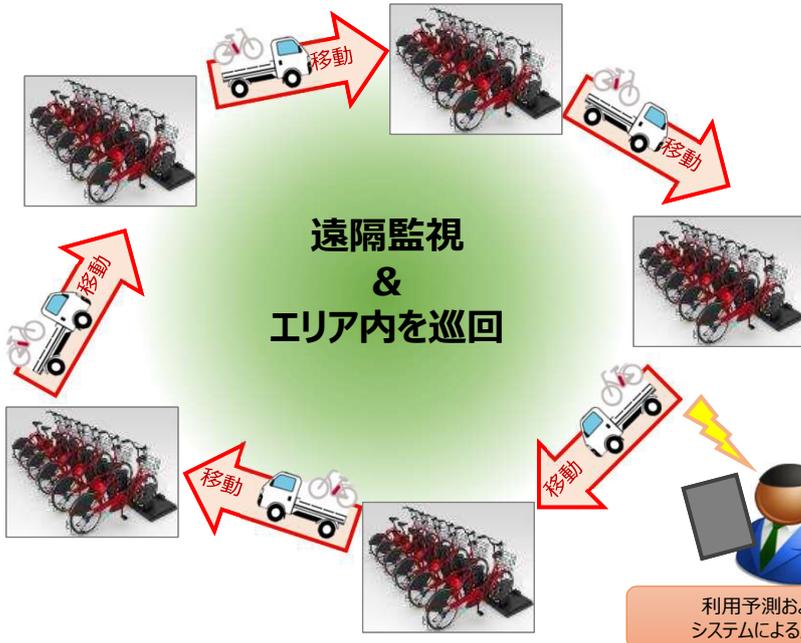


コミュニティサイクル運営方法のご紹介

運営スタッフが日中帯に各ポートを巡回し自転車の再配置・バッテリー交換・各ポートの清掃などを実施、サービス品質の維持・向上に努めております。

※溢れの回収・補充や故障車両メンテナンス対応/巡回トラックは2トンロングワイドを使用

※台数制限ポートつきまちは、設置ラック数以上の返却ができません。急な回収・配置の対応は出来かねます。



1 遠隔監視 & 再配置

サイクルポートへの効率的な自転車配置を行うため、利用状況をリアルタイムで遠隔監視しております

2 自転車チェック

サイクルポート巡回時に、自転車のメンテナンスを行い、サービス品質の維持・向上に努めております

3 ポートメンテナンス

サイクルポートの清掃等を定期的に実施し周囲の景観維持に努めております



自転車シェアリングのシステム

保険に加入しています
万が一の事故の際もご安心

GPS/準天頂衛星で
位置データ管理
自転車位置をリアルタイム管理

簡易設置型のビーコンで
ポートを仮想管理
電源工事不要
半径 5m の範囲で貸出返却可能

迅速かつ一時的にポート設置可能
電源工事をせずにイベントや災害時など
容易にポート設置可能

補償内容

		補償
ご自身のおけが	死亡・後遺障害保険	1,000万円
	入院補償金日額	5,000円
	通院補償金日額	2,500円
第三者への賠償	限度額	対人・対物の補償 1名1事故2億円 (対人・対物共通) <特約> 訴訟対応費用補償 1事故 1,000万円 初期対応費用補償 1事故 1,000万円 被害者治療費等補償 1事故 1,000万円 (被害者傷害費用 1名 最高50万円 (見舞品購入費用3万円))



QRコードを
使用し
解錠



ICカード
(おサイフケータイ)対応
交通系ICカードや
おサイフケータイで
ワンタッチ貸出しに対応

電動アシスト付自転車
坂道でも移動が楽々

導入コスト30%以上削減
専用機械ラック不要。
従来ポート型システムから導入コスト削減

サイクルポート設置のメリット

① 利便性向上・・・最寄り駅からのアクセス向上



- ② 集客効果・・・ポート設置後の来客数2%増 返却後入店率15%
- ③ 違法駐輪対策・・・物理的に違法自転車を置けなくすることによる対策
- ④ 不動産価値向上・・・近隣住民の方の利便性が向上することによる不動産価値向上
- ⑤ 地域貢献・・・災害、人身事故、設備故障などで電車やバスなどの交通機関が遮断された際の代替移動手段として有効

【基本的な考え方】

- 駅・バス停・商業施設等
利用者が集まる場所にサイクルポートを設置
 - 周辺部の住宅地
駅・バス停・商業施設等との導線を確保住民の方の利便性を向上
- 横浜市では、バイクシェアを交通不便地域の解消手段の一つと考えています



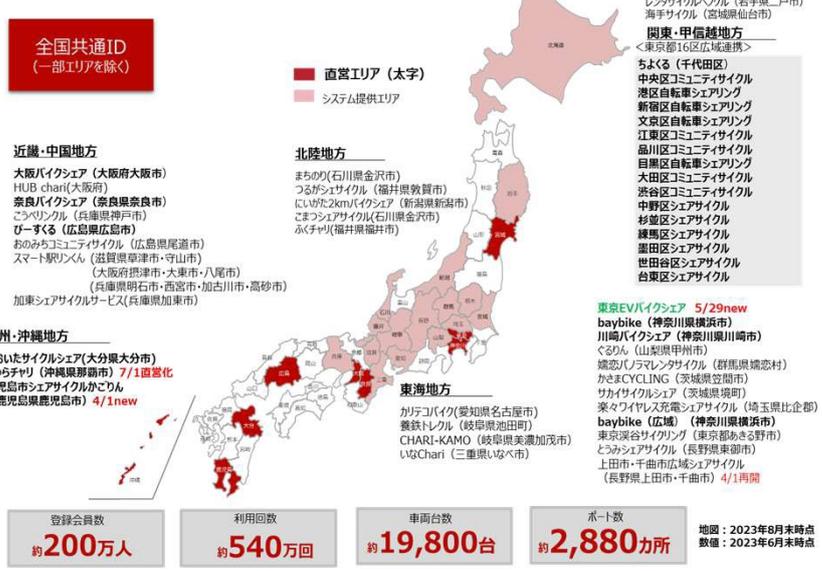
↑ baybikeホームページ

【baybikeホームページ・アプリ】
サイクルポート名をマンション名会社名や店舗名にすることが可能です。
baybikeホームページやアプリに掲載されるため広告効果も期待できます。

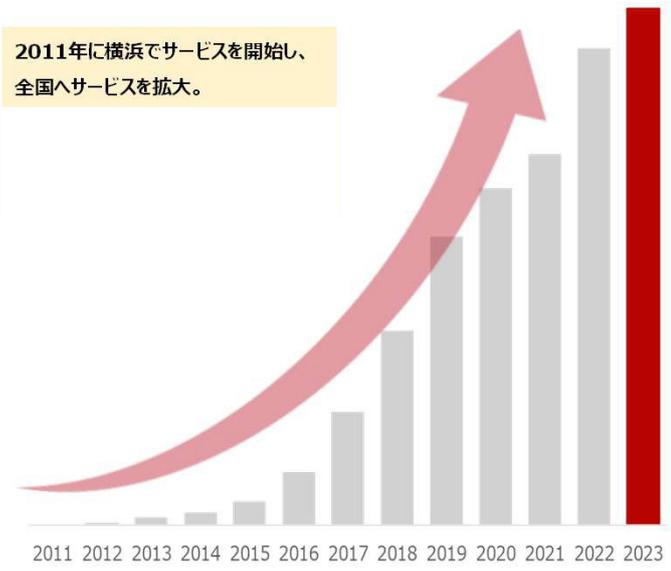
↑ バイクシェアアプリ

ドコモ・バイクシェア、baybikeとは

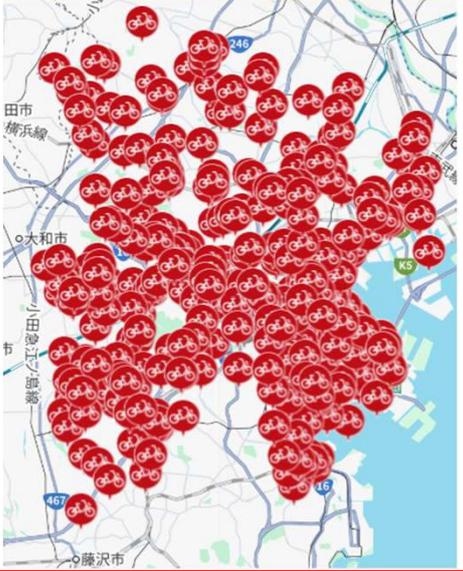
全国への展開



全国の利用回数



ポートマップ



横浜都心部コミュニティサイクル baybike

【実施主体】 横浜市道路局 (事業の調整)
【運営主体】 株式会社ドコモ・バイクシェア (事業の運営 (再配置等))
【規模】 ※2025年10月末時点
自転車台数 2,000台
ポート数 約320ヶ所



baybikeの歴史

2011年から社会実験を開始
2014年より本格スタート
都心部「みなとみらい」を中心とした西区・中区・神奈川区一部・南区一部の横浜市の中心部で展開。
実施主体は2024年3月末まで「横浜市都市整備局」
運営主体は株式会社ドコモ・バイクシェア。

2022年から「その他の横浜市内」でも社会実験としてスタート。北部・中部・南部にエリアを分け、この3つのエリアについては横浜市道路局が実施主体となり、中部を株式会社ドコモ・バイクシェアが担当、北部/南部はオープンストリート株式会社が担当 (公募にて決定)。
中部エリア：瀬谷区・泉区・旭区・戸塚区・保土ヶ谷区・緑区 (都心部は横浜市都市整備局が実施主体)

2025年から横浜市内全域となり、北部・南部エリアを担当していたオープンストリート株式会社様と共同事業者となり実施主体横浜市道路局と事業を開始。
また、2025年6月2日からそれぞれのポートが利用できる共同ポートを開始 (公有地より開始)。